

# 技術・家庭科学習指導案

平成17年10月 日( )

指導学級 年 組 場所 被服室 調理室

指導者 中学校 教諭

1 題材名 「わたしたちと幼児のふれあい」 B(5)第2学年(13時間)

## 2 題材設定の理由

核家族化による家族数の減少や少子化が進む現在、家族の形態や機能は著しく変化している。このような中、中学生は異年齢の子どもたちとふれあう場や時間が非常に少ない。特に、家の中で遊ぶことが多く身近に幼児がいないため、直接ふれあう機会もほとんどないのが現状である。

蕪崎市では地域の活動として子育て支援に力を入れ、幼児がさまざまな人とふれあう機会を設けているが、実際には中学生の参加は少ない。

ここでは、学習指導要領のB(2)「幼児の発達と家族」で幼児について基本的な内容を習得した上で、保育園訪問による観察や一緒に遊ぶなどのふれあいの体験を取り入れたいと考えた。実際に幼児とふれあうことにより、幼児についての理解と関心を高める場としていきたい。

また、アンケート結果では、生徒は、幼児の食生活について興味関心が高かった。そこで、そのなかから、幼児の喜ぶおやつづくりをとりあげた。単に幼児が喜ぶおやつをつくるのではなく、幼児の成長過程を理解した上で、学習を深めていきたいと考えている。

幼児とのふれあい体験を二回設定した。最初の交流会では、生活や心身の発達、遊びの様子を知り、幼児とのふれあいに関心をもたせたいと考えている。さらに、二度目の交流では、一度目の交流会の経験を生かし、最初の交流会を終えて各自が抱いたふれあいへの願いを達成する場として、二回目の交流会を企画することにした。幼児とふれあいながらおやつづくりをする体験を通して、幼児とよりよくかかわろうとする生徒の育成を目指して本題材を設定した。

## 3 題材のねらい

- ・ 幼児の心身の発達を考え、幼児とのふれあいやかかわり方を工夫することができる。
- ・ 幼児の生活に関心を持ち、課題をもって幼児の生活に役立つものをつくることのできる。

## 4 生徒の実態

第2学年5組(男子21名、女子15名、計36名)は真面目で前向きな生徒が多いので、落ち着いた生活を送っている。幼児に関しての事前の意識調査では、「好きである」と答えた生徒は9名、「どちらかといえば好き」9名、「普通」15名、「嫌い」3名であった。嫌いな生徒の理由については、『うるさい』、『話が通じない』などが挙げられた。

幼児と接する時間については、近所の幼児を見かける程度でゆっくりとふれあう時間はほとんどない状況である。

第1回の交流会の事前指導において、生徒の交流への意欲は感じられるが、『どのように話しかけたらよいのか』、『泣いてしまったら困る』など、幼児との接し方に多くの不安を感じていた。しかし、交流会後のレポートでは、園児の無邪気さや明るさに助けられ、『楽しかった』、『すべてが小さかった』などの感想がまとめられていた。最初の交流会の経験を生かし、次回の交流は幼児とよりよくかかわろうとする意欲が感じられる。

## 5 題材の指導計画(全 13時間)

( 1 ) 指導計画

番号	内 容	時数
1	オリエンテーション・訪問学習の計画	1
2	保育所訪問(交流会1 保育所へ行こう)	2
3	幼児の喜ぶおやつ計画	2
4	おやつの実習	2
5	おやつづくりのまとめと交流会の計画	2
6	幼児とのふれあいクッキング (交流会2 中学校へ招待しよう)	1
7	交流体験記製作	2
8	交流体験記の発表会	1

本時

( 2 ) 評価規準

	項目	ア 生活や技術への 関心・意欲・態度	イ 生活を工夫し 創造する能力	ウ 生活の技能	エ 生活や技術につ いて知識・理解
評価規準	B(5)	幼児の生活と幼児とのふれあいについて関心をもち、主体的に学習活動に取り組み、幼児と適切にかかわろうとしている。	幼児の生活と幼児とのふれあいについて課題を見付け、その解決を目指して自分なりに工夫し創造している。	幼児の生活に役立つものの製作や幼児とのふれあいができる。	幼児について理解を深めるとともに、幼児の生活に役立つ物の製作や幼児とのかわり方に関する基礎的な知識を身に付けている。
学習活動における評価規準の具体例		幼児の生活と幼児とのふれあいに関心をもち、保育所訪問における課題を見つけようとしている。	幼児期にふさわしいおやつづくりの計画を工夫している。	自分の課題にそって幼児を観察したり、かかわったりすることができる。	幼児と適切にかかわるために必要な基礎的な知識を理解している。
		幼児とのふれあいに意欲をもって取り組み、適切にかかわろうとしている。	幼児とふれあいクッキングを行うにあたり、実習の計画を各班で工夫している。	幼児期にふさわしい工夫をしたおやつを作ることができる。	幼児期の食生活におけるおやつの意義について理解している。
		幼児の喜ぶおやつ作りに関心をもって取り組み、作る楽しさや完成の喜びを味わおうとしている。	自分の課題にそって体験記まとめ方を工夫している。	交流会の準備が能率的にできる。	これからの生活で幼児と適切にかかわるために必要な基礎的な知識を理解している。
		おやつ作りを通して、幼児と適切にふれあおうとしている。		場に応じて適切に幼児と接することができる。	
				幼児とのふれあいの体験をまとめることができる。	
			幼児とのふれあい体験から、まとめた交流体験記をわかりやすく発表できる。		

(3) 指導と評価の計画

時間	ねらい・学習活動	関 意 態	工 創	技	知 理	評価対象など
1	<b>オリエンテーション・訪問学習の計画</b> ・幼児の生活と幼児とのふれあいに関心をもち、保育所訪問における課題を見つけることができる。 ・幼児と適切にかかわるために必要な基礎的な知識を理解する。					ワークシート
2 3	<b>保育所訪問（交流会1 保育所へ行こう）</b> ・幼児とのふれあいに意欲をもって取り組み、適切にかかわることができる。 ・自分の課題にそって幼児を観察したりかかわったりすることができる。					観察
4 5	<b>幼児の喜ぶおやつ計画</b> ・幼児期にふさわしいおやつづくりを工夫することができる。 ・幼児期の食生活におけるおやつの意義を理解する。					観察 ワークシート
6 7	<b>おやつの実習</b> ・幼児の喜ぶおやつに作りに関心をもって取り組み、作る楽しさや完成の喜びを味わうことができる。 ・幼児期にふさわしい工夫したおやつを作ることができる。					観察 ワークシート 作品(おやつ)
8 9	<b>おやつづくりのまとめと交流会の計画</b> ・幼児とふれあいクッキングを行うにあたり、実習の計画を各班で工夫することができる。 ・幼児にふさわしい交流会の準備ができる。					観察 ワークシート
10	<b>幼児とのふれあいクッキング（交流会2 中学校へ招待しよう）</b> ・おやつづくりを通して、幼児と積極的にふれあうことができる。 ・場に応じて幼児に適切な接し方ができる。 本時					観察 ワークシート
11 12	<b>交流体験記の製作</b> ・幼児とのふれあいの体験をまとめることができる。 ・体験記は自分の計画にそってまとめ方を工夫することができる。					観察 ワークシート 作品(体験記)
13	<b>交流体験記の発表</b> ・幼児とのふれあい体験から、まとめた交流体験記をわかりやすく発表できる。 ・これからの生活で幼児と適切にかかわるために必要な基礎的な知識を理解する。					観察 ワークシート 作品(体験記)

6 本時の授業

(1) 目標

- ・おやつ作りを通して、幼児と楽しくふれあおうとしている。
- ・場に応じて、幼児と適切な接し方ができる。

(2) 指導と判断のめやす

関 意 態	工 創	技 能	知 理	A	B	C	評価方法
				十分満足と判断される状況	おおむね満足と判断される状況	努力を要する生徒への支援	

		おやつ作りを通して、幼児と積極的にふれあおうとしている。	おやつ作りを通して、幼児と適切にふれあおうとしている。	前時の学習を生かすよう、うながす。	観察 ワークシート
		話しかけや接し方、援助の工夫をしながら、場に応じて幼児と適切に接することができる。	場に応じて適切に幼児と接することができる。	幼児とのかかわり方をアドバイスをする。	観察 ワークシート

(3) 展開例

生徒の活動	教師の活動	備考
1 幼児を迎える。 本時のねらいを確認する。  2 はじめの会 あいさつ 歓迎のあいさつ 保育士の紹介とあいさつ 自己紹介(班ごと) 活動上の諸注意 おわりのことば	1 本時のねらいを確認させる  2 はじめの会 活動上の緒注意の確認を指示する 衛生面や安全面への配慮についてまとめたものを掲示し、指示する。 他の生徒のかかわり方で良い面を観察するように指示する。	名札・ランチョンマットの用意
3 おやつづくり 実習準備係 ・調理室の準備を整える 幼児の身支度係 ・園児の支度や手洗いの手伝いをし、調理室に連れて行く 全員でおやつ作りの調理実習を行う 実習準備係 ・できあがった班は被服室に移動し全員揃うのを待つ 幼児の身支度係 ・調理実習の片付をする  4 試食 班ごとに楽しく試食をしながら、適切に幼児と接する  5 おわりの会 試食 感想発表 お礼の言葉 保育士から中学生へ あいさつ 園児の見送り	3 おやつづくり 各班の進行状況を確認し、必要に応じて声をかける。  衛生面や安全面への配慮する。  保育士にも動きを見てもらう。  時間の差が出た場合は様子を見ながら指導する。  楽しく試食ができるように助言する。  おわりの会がスムーズに進行できるようにうながす。  <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;">要素B - 2 (学びの共有)</div>	関 【評価方法】 観察  技 【評価方法】 観察  麦茶の用意
6 まとめと評価をおこなう。 授業の感想やまとめを自己評価表に記入する	6 学習のまとめをする。 授業の感想やまとめを記入するように指示する	関 【評価方法】 技 【評価方法】 ワークシートへの記入

# ふれあいクッキング

2年 ( )組 ( )番氏名( )

私の課題

幼児と接したときに具体的におこなったこと

友だちの接し方でよかったこと

学びの共有

一度目よりも自分なりに努力したこと心がけたこと

## 自己評価

・おやつ作りを通して、幼児と楽しくふれあおうとしましたか。

はい だいたいできた ふつう あまりできなかった

・場に応じて、幼児と適切な接し方できましたか。

はい だいたいできた ふつう あまりできなかった



「B 家族と家庭生活」題材対応表					
			題材名 幼児の発達と家族	題材名 わたしたちと幼児のふれあい	
分類	記号	評価		評価	
(1) 自分の成長と家族や家庭生活とのかかわりについて考えさせる。	(1)		自分と家族とのかかわり		
			家族や周囲の人		
(2) 幼児の発達と家族について、次の事項を指導する。	(2)ア		遊び道具の製作と幼児の遊びの意義		
			自分の成長過程	幼児の観察	
		(2)イ		幼児の心身の発達の特徴	
				家族の役割	
		基本的な生活習慣			
	(3)ア		よりよい家族関係をつくる		
			家庭や家族の重要性		
			自分と家族を含めた地域とのかかわり		
(3) 家庭と家族関係について、次の事項を指導する。	(3)イ		家族の機能		
			家庭生活が地域の人々とのつながりで、成り立っていること		
			地域の幼児とのかかわり		
(5) 幼児の生活と幼児とのふれあいについて、次の事項を指導する。	(5)ア		遊び道具の役割	間食の意義 幼児の生活に役立つものの製作	
		(5)イ	基本的な生活習慣 世代の違う地域の人々との交流	幼児とのふれあい方の工夫	